

# 分析検査用土壌の採取方法

## 1. ほ場の選定について

・国道、県道や市道等大きな道沿い、河川沿い、樹木等の日陰、湧水等の影響を受けている場所を除いた、ほぼ平均的なほ場を選定して下さい。

## 2. 採取方法について

- ・**図1**のように1圃場から対角線上の5ヶ所より表層1cm位を除いた、深さ15~25cmまでの作土を**図2**のように手スコップ等でV字型の溝を掘り、採取します。
- ・土壌採取の際は、土層の上下で厚さが変わらないようにご注意ください。
- ・1ヶ所から生土を500gずつ採取した後、5ヶ所分の土をよく混合し500g~1,000gを試料とします。作物がある場合は肥料と土が混ざらないように注意し、畦間の土壌を採取してください。
- ・採取の際は、ワラ層・雑草などが入らないように注意してください。

図-1

対角線上の5ヶ所から土壌を採取します。

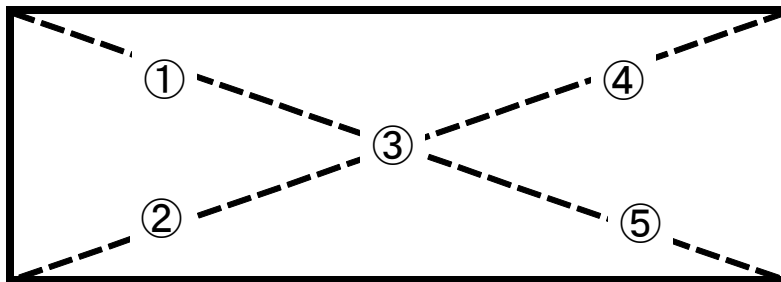
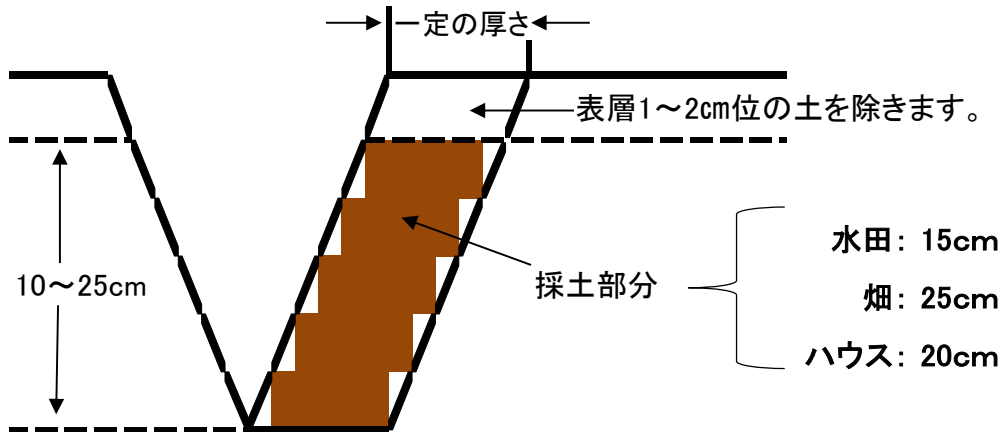


図-2



## 3. 採取した土壌の調整について

- ①混合した土壌は乾燥を早めるためなるべく細かく砕き、新聞紙等に薄く広げて日陰で1週間ほど乾燥させます。※その際は、湿気が無くなるまで十分乾燥して下さい。
- ②乾燥した土は、細かく砕いた後ふるいにかけて下さい。
- ③異物(ワラ・ごみ・雑草等)を取り除いてください。
- ④混合した土から分析用土壌を150g程度[約1合]採取し、袋に入れ提出ください。

・上記①~④の要件を満たしていない場合正確な計測ができないため、受付場所にて一旦お持ち帰りいただき調整後再提出いただく場合がございますので、予めご承知置きください。

**\* 採取した土壌はビニール袋等に入れ、専用の申込み用紙に必要事項を記入後袋に貼付し、提出いただきますようお願いいたします。**